

DX Digital Transformation

DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面で良い方向に変更させることで、自治体においては、ICTを活用し、「市民の利便性向上」や「業務プロセスの再構築」を行うことです。

まちを変える 未来が変わる

☎ICT政策課 ☎・☎(582)1124 ☎(583)9444



ICTを活用している先進自治会として、荒見自治会の石原 和成自治会長にデジタル技術を活用するメリットと注意点などについてインタビューしました。

会場 荒見自治会館
聞き手 ICT政策課 小林 裕子

Q 自治会館にICT環境を整えたのはいつですか？

A 自治会館のネット環境はもともとありましたが、平成27年にコミュニティ助成事業の補助を受けて、ネットワーク環境の改修およびパソコンやソフトを充実しました。

Q 主にどんな使い方をしていますか？

A 自治会では情報共有の迅速化、迅速に情報を伝えるために、荒見版のニュースを全住民にメール配信やホームページで伝達を行っています。また、これまで自治会館のパソコンを使用して、確定申告や国勢調査、コロナ禍ではワクチン予約などのサポートを行いました。自治会役員会・自治会長会など、さまざまな会議はできるだけリモートで行うようにしています(私も高齢者なのでコロナ感染は怖いからです)。

Q 対面で話す方がやりやすいという声もあるのでは？

A もちろん直接会議に参加する人もいます。対面の場合、マスクをしているので表情が分かりませんが、リモートならマスクを外せますから表情が分かります。また、移動時間の節約、交通費および会場準備などのコスト削減や、場所を選ばずに、手軽にみんなが会議に参加しやすいので、地球に優しい手段だと思います。

Q とても精力的にICTを活用しているのですね。これから活用を考えている自治会もあると思いますが、アドバイスはありますか？

A ICTを活用して作業が終わったということではない、と常より考えておくことです。実際に経験したのですが、メールの一斉配信ができずに全部戻ってきたことがありました。原因は1人の容量不足によるものでした。荒見には170世帯がありますが、デジタルの環境はそれぞれ異なっています。ICTやデジタルを使うのは「人」です。ICTの環境を作り、自治会にはいろいろな人がいることを承知したうえで、その人に合ったサポートをしっかりと行いながら、住民への迅速な対応とメールアドレスなど個人情報の管理方法も考えておく必要があります。

Q 自治会でICT活用を活用するうえで、今後の抱負を教えてください。

A パスワードを設定した自治会館のパソコンを住民に開放していますが、一緒に住民のサポートをしてくれる人、できる人を増やしていきたいと考えています。



自治会役員会(リモート)の様子